

## <活動の概要>

科研「描画支援技術に対応したヴィジュアル・リテラシーの再定義と教育プログラムの開発」について調査と研究会を実施した。

プロジェクトとして「Collaborative Design Research Project」を学外との協働活動を実施した。また、三菱鉛筆、自動車関連研究機関との共同研究を実施した。

名古屋大学 Common Nexus アンバサダー、一橋大学社会科学高等研究院 (HIAS) との大学間連携「データから地域の未来をデザインする『SDGs × データサイエンス 2025』」を実施した。

産学連携「生成系 AI を活用したビジネス挑戦プラットフォームにおける企業、個人価値創出 WG」を実施した。

社会活動として、名古屋芸術大学にて非常勤講師「インターメディア表現」の授業を担当、岐阜県立大垣北高校探究授業を担当した。

## <学内活動>

### 1 科研「描画支援技術に対応したヴィジュアル・リテラシーの再定義と教育プログラムの開発」

近年進化の著しい描画支援技術に対応するためにヴィジュアル・リテラシーを再定義することと、再定義に対応した教育プログラムを試作・評価する。従来は基礎的な知識を習得したのちに表現を作り出すという一定のプロセスであったが、描画支援技術（生成 AI）の急速な進化は基礎的なプロセスを飛ばして、一気に表現を作り出すことを可能にした。この新しい表現方法について、既存のヴィジュアル・リテラシー研究は対応ができていない。そこで、本研究グループがこれまで進めてきた研究を描画支援技術に対応した形に拡張する。ヴィジュアル・リテラシーを再定義し、具体的な教育プログラムを施策し実証する。

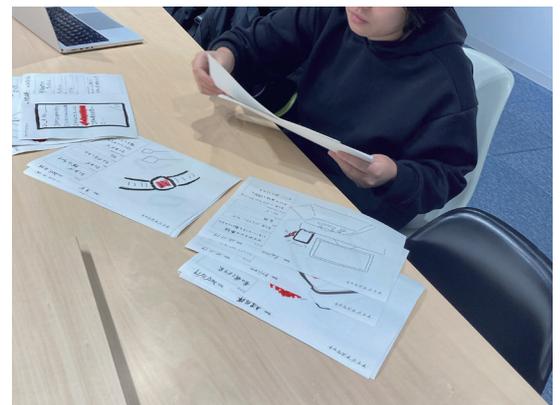
まず描画支援技術とヴィジュアル・リテラシーとの関係に関する文献調査を進めた。生成された描画結果をどのように扱うのかという視点ではなく、支援ツールとしての生成技術としての可能性に着目することとした。そこで、アイデアスケッチの支援に関する調査を実施し、その結果を日本デザイン学会にて発表した。

#### 研究会実施：

2025 年 3 月 12 日（京都工芸繊維大）      2025 年 5 月 30 日（オンライン）  
2025 年 8 月 31 日（HUB GUJO）            2025 年 12 月 20 日（オンライン）

#### 論文発表：

鈴木 宣也「生成 AI を用いたアイデアスケッチの検討報告」日本デザイン学会、第 72 回春季研究発表会、B7-03、2025



## 2「Collaborative Design Research Project」

デザイン思考などのデザイン方法論について、実効する人やその経験則、対象としたフレーム自体の設定、あるいは提案した解決方法自体の影響も含め、方法論自体に関する検証の時期に来ている。社会性や人々の価値観の変化も踏まえ、新たな問いのあり方やデザインプロセスが関わる影響やその範囲についてを検討する必要がある。デザインは課題解決に対する一つのツールではなく、デザインが関わるプロセスの中で、課題との関係性を再検討しなければならない。これまでの原因と結果に基づいた近代的デザイン方法を乗り越えるためにも、全体性やその影響なども含め試行し、デザインする人とデザインする対象との関係を考え、社会とデザインが影響する範囲を検討したい。

そこで本プロジェクトでは、地域や企業と対話を進め、デザインの役割について調査していく。互いが交差するプロトタイピングや共同研究へ向けた前段階の対話も含め、フレームの設定やビジョンの共有やプロセスの理解も含め、それぞれの関わりについて調査する。デザインと実際の対象間をブリッジさせ、その上に立ったことで得られる新しい視点を通して、今後のデザインについて検討する。

今年度最終年度であるため、プロジェクト成果を紀要へ投稿した。また、2026年1月に岐阜県庁ギャラリーにて成果展示を実施する予定であり、その準備をした。

- 1 大垣市共同研究「イアマスこどもだいがく」
- 2 広葉樹活用「飛騨家具ーパラメトリックデザイン」
- 3 共同研究「岐阜外国人支援」

研究代表：鈴木宣也 研究分担：赤羽亨

論文投稿：

小林史佳、牛尾日莉、菊田佳恵、三波蒼菜、橋本正隆、赤羽亨、鈴木宣也、「イアマスこどもだいがく「もしもしワールド」～糸電話を使用した「通信」と「コミュニケーション」のワークショップ～」情報科学芸術大学院大学紀要 Vol.16、pp.123-131、2025

## 3 三菱鉛筆との共同研究

「アイデアスケッチを活用したデザインプロセスに関する実践研究」

三菱鉛筆株式会社での新商品または新規事業開発プロセスに、試験的にアイデアスケッチ手法を取り入れた上で、その有効性と発展可能性についての検証を行った。

研究者：鈴木宣也、赤羽亨

## 4 自動車関連研究機関との共同研究

自動車関連研究機関との共同研究を実施している。現在研究中であり公開できないため、終了後あらためて報告する。

研究者：鈴木宣也

## 5 名古屋の施設との共同研究

研究者：鈴木宣也、赤羽亨

<学外活動>

1 非常勤講師：名古屋芸術大学「インターメディア表現」

日時：2025/11/1-2026/01/31

内容：デジタル表現では、サウンドが、グラフィクスなど他の表現媒体とともに使われ、文学や映画、パフォーマンスなど、多岐にわたった表現に用いられており、それらを複合的に使うことで表現が拡張されてきた。媒体を横断するインターメディアの多様な表現をテーマに、コミュニケーションの可能性について、制作を通して理解する。

2 産学連携「生成系 AI を活用したビジネス挑戦プラットフォームにおける企業、個人価値創出 WG」のアドバイザー

3 大学間連携：一橋大学社会科学高等研究院 (HIAS)「データから地域の未来をデザインする『SDGs× データサイエンス 2025』」実施

4 大垣北高校探究授業「探究報告書作成に関する講義」

---

<社会活動>

1 ソフトピアジャパン理事

2 岐阜県国民文化祭企画委員会委員

3 岐阜県国民文化祭実行委員会委員

4 ぎふメディアコスモス運営委員

5 岐阜県 DX コンソーシアム理事

6 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜運営協議会委員

7 名古屋大学「Common Nexus」アンバサダー